

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

横浜市立大学消化器外科での国内外科研修を終えて

千葉メディカルセンター

渡邊 裕樹

日本臨床外科学会の国内外科研修制度により令和2年11月15日から21日まで横浜市立大学消化器外科で外科研修をさせていただいた。このようなプログラムが存在することは全く知らなかった。あるとき、当院の外科部長よりこのプログラムに参加してみないかというお話をいただいた。正直、最初はあまり乗り気ではなかった。

元々千葉大学食道胃腸外科所属で消化管手術に関しては数多く経験させていただいていた。今後も消化管の手術をメインで仕事をさせていただくこととなるだろう。しかし消化器外科医としては肝胆膵の手術をもう少し勉強したいとも常々考えていた。また現在の病院はまさに野戦病院で定期的手術と緊急手術の繰り返し。重傷な患者も多く忙しい毎日を送ると同時に目の前の仕事をこなすことで精一杯であった。そのため普段は経験のできない何らかの刺激が欲しいとも感じていた。せっかくこのような機会があるのであれば応募して勉強させていただこうと決心した。何人かの先生に相談して横浜市立大学消化器外科の遠藤教授の下での研修を勧められ応募させていただいた。

このような経緯をたどり横浜市立大学消化器外科で研修をさせていただくこととなった。大学病院の手術日は大学病院で、手術日でない日には横浜市立大学附属市民総合医療センターで研修させていただいた。この1週間は非常に刺激的な1週間であった。研修は主に手術である。臍頭十二指腸切除、感染性肝嚢胞に対する腹腔鏡下肝嚢胞開窓術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下膵体尾部切除術、横浜市立大学附属市民総合医療センターでは腹腔鏡下幽門側胃切除術を研修させていただいた。

一つ一つの手術がどれも自分にとっては刺激的であった。研修医のころから現在に至るまで千葉大学系列の病院でのみ働いてきた自分にとっては使用する器具の違い、剥離操作の違いなどすべてが新鮮であった。腹腔鏡下胆嚢摘出術のような一般的に行われる手術でも自分自身が今まで行ってきた方法と違う部分があり様々なことを学ばせていただき、自分が行う手術に取り入れさせていただいていることもある。またどの先生の手術も非常に丁寧で慎重な操作であった。血管周りをここまで剥離するのかと驚いたものだ。

また印象的であったことは大学病院では朝のカンファレンスで臨床試験の進み具合や現在進行中の論文の進み具合を設けていることであった。また市民総合医療センターでも臨床試験の会話が活発であったことである。普段の診療からどれほど意識されているのかが感じられる出来事であった。今まで臨床試験に関しては上級医が話していることをなんとなく聞いているだけであったが、今後自分が携わる仕事の一つとして遠くに存在していたものが少し身近に感じられるような出来事であった。

最後に研修中、横浜市立大学消化器外科、横浜市立大学附属市民総合医療センターの皆様には大変お世話になり本当にありがとうございました。このような貴重な機会を与えてくださった日本臨床外科学会国内研修委員会の先生方、ご推薦いただきました千葉メディカルセンター高石聡先生、自分の不在中ご迷惑をおかけした千葉メディカルセンター外科スタッフの皆様にご感謝申し上げます。